

2012 ロンドン大会から見た 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けた提言

A suggestion for success of 2020 Tokyo Olympic and Paralympic games -Focus on London's experience-

1K10C017-0

指導教員 主査 平田竹男 先生

荒浪 大

副査 中村好男 先生

【研究背景】

2013 年 9 月 7 日、アルゼンチン・ブエノスアイレスで行われた第 117 次 IOC 総会にて、東京が 2020 年の第 32 回夏季オリンピック競技大会及び第 16 回パラリンピック競技大会の開催都市に選出された。大会の成功は至上命題である。

大会の成功に向けて、過去のオリンピック・パラリンピック大会の成果と課題を検証し、計画や運営に活かしていくことは重要なプロセスである。そこで、直近の大会であり、東京と経済的・社会的事情に共通点が見られる 2012 ロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会に注目した。

【研究目的】

2020 東京大会の直近の大会であり、なおかつ背景となる社会的・経済的事情が酷似している 2012 ロンドン大会の掲げた理念や計画から施策や成果を総合的に検証することで、2020 東京大会成功に向けた提言をする。

【研究方法】

本研究では、IOC Coordination Commission によって作成された FINAL REPORT OF THE IOC COORDINATION COMMISSION (2013 年) がロンドン大会を総合的かつ客観的に分析していると判断し、これを主軸として、東京大会が参考にすべき特に重要なポイントを精査・選別し、それらの事項について必要に応じて英国で発表されている各種調査・レポートを補完的に活用しながら、ロンドン大会を総合的に評価し、東京が参考にすべき点を考察した。

【研究結果】

Vision: use power of the Games to inspire lasting change すなわち、オリンピック・パラリンピックの開催によって得られる力を、持続的な変化をもたらす力に還元するという言葉に集約される。運用については、①明確な提示、②統一性、③継続性の 3 点が評価されている。

Governance : corporate governance structure と呼ばれる重要多組織との組織横断的な連携体制を早期に構築したことで、全ての重要ステークホルダーの役割と責任、また組織全体の長期的な目標を正確に定義し、Vision を共有しながら計画及び運営を遂行することが可能になった。

Engagement : Everyone's Games の理念のもとに Live sites と Games Maker volunteer programme を実施し、より多くの人々に

オリンピックを経験する機会を提供した。また、Beyond Sport 理念のもとに Cultural Olympiad と Get Set programme を実施し、オリンピックのバリューをスポーツ枠を越えた様々な分野の発展に還元した。

Preparation : 42 のスポーツテストイベントを含む大規模なテストの実施によって、全ての関係組織と共同で大会へのスキームを再検討する機会を得、大会運営をより精密なものにした。

Delivering the Games : ① Prices、② Re-sale/Recycling、③ Accessibility に配慮したチケットプログラムによって、チケット総数の 97% に当たる 850 万枚のチケットを売り上げ、より多くの人々に会場での観戦機会を提供し、オリンピックの感動や興奮を広めた。

Legacy : ①スポーツ及び文化、教育、ボランティアといった分野に長期的な財産を遺し、②持続性と多様性をテーマにした大会計画・運営を行い、③オリンピック・パラリンピックの歴史に新たなムーブメントを生み出した。

【考察】

Discover Tomorrow を Vision に掲げる東京大会は、ロンドンと価値観を共有する点が多い。

ロンドン(FINAL REPORT)		東京(大会計画)
Use power of the Games to inspire lasting change		
		パラリンピックの価値の継承

ロンドン、東京両大会が Vision において共有する価値観の対応表

したがって、ロンドン大会の Vision をもとにした総合的な大会計画・運営の成功とその実現のための個別の施策を参考にすることは非常に重要である。

【結論】

ロンドン大会は、オリンピックの力を持続的な変化に還元するという Vision を招致段階で明確に掲げ、それを実現していくための強固な Governance を築くことで、全ての計画に Vision の考えを落とし込み、それが様々な施策に反映され、結果としてロンドン及び英国あるいはオリンピック・ムーブメントに多大なレガシーを遺した。これは、Vision を同じくする東京に大きな示唆を与える。